

## 第7分科会 関係機関等との連携

テーマ 「早期からの切れ目ない支援体制の構築」

提案Ⅰ 「相談しやすい関係性を目指すために」

～自立支援協議会 教育支援部会の取組を中心に～

発表者	山口県 美祢市立大嶺小学校	教諭	安富 正人
司会者	山口県立周南総合支援学校	教諭	松岡 孝史
助言者	山口県 山陽小野田市立厚狭中学校	校長	小林久美子

## I 実践に当たって

山口県美祢市は、約23,000人の人口を擁し、山口県西部のほぼ中央に位置する、緑豊かな中山間地域にある市である。幼稚園・保育園が計13園、小学校が11校、中学校が6校ある。

山口県では、平成18年3月に「山口県特別支援教育ビジョン」を策定した。それに基づき、七つに設定した支援地域に特別支援教育センターを配置した拠点校を置き、それを補完するために、小・中学校にサブセンターを設定している。各センターには、特別支援教育地域コーディネーター（以下「地域コーディネーター」と記載）が配置され、発達障がい等の幼児児童生徒への相談支援や情報提供、研修協力などを行っている。

発表者は、美祢市のサブセンターである大嶺小学校に地域コーディネーターとして配置され、上記の業務を行いつつ、通級指導教室指導担当としても指導を行っている。地域コーディネーターは、年に1回の「巡回訪問」として、小・中学校を巡回し、主に、授業参観や教員との相談業務を通して、特別支援教育の推進や各学校の支援体制についての把握を図っている。また、各学校園の依頼に対応した「要請訪問」も行っており、その際は、よりきめ細やかな相談支援を実施している。また、「美祢市地域自立支援協議会 教育支援部会（以後「教育支援部会」と記載）の委員も務めている。本実践は、この「教育支援部会」の取組から、幼稚園・保育園との連携を深めることで、早期からの相談支援や支援体制を構築することを目的とした。

## II 実践内容

### Ⅰ 「教育支援部会」の委員と本実践を開始するまで

「教育支援部会」の委員は、幼稚園教諭、保育園園長、ことばの教室幼児部担当者、療育関係者、当事者親の会会長、保健師、家庭児童相談員、地域福祉課主事、相談支援専門員、学校教育課特別支援教育担当指導主事、地域コーディネーター（センター1名、サブセンター1名）などで構成されている。平成30年の部会協議の中で、幼稚園や保育園などで、「相談支援につなげたいケースがあるが、なかなか保護者の方に踏み出していただけでない」「相談を行うのに、保護者の中で心理的なハードルがあるのではないか」「子育てに対して、サポートしてくれる人がいるということを保護者に発信できないか」などの意見交換があり、これらを具現

化するために、幼稚園や保育園にて、保護者向けの子育てに関する講演会が計画され、講師は地域コーディネーターが担うこととなった。

## 2 子育て講演会の内容について

「教育支援部会」は障害福祉行政の推進を目的とした組織ではあるが、以下のような方向性で講演会の内容を検討していくこととした。

- ・心理面でのハードルを下げられるように、「障がい」等の言葉を使用しない。
- ・誰もが、様々な特徴があることについて理解を図る。
- ・その特徴に合わせて成長していくことが大切であることを伝える。
- ・具体的な相談事例などを挙げることで、相談することのメリットを感じられるようにする。
- ・可能な限り、相談できる人の顔が分かり、保護者が安心できるように工夫をする。

## 3 子育て講演会の実際について

講演会は、市内の園に実施の希望調査を行い、希望があった園に対して実施した。また、本部会の取組や研修内容について発信するために、市保育連盟の総会にて、保育士に向けて、子育て講演会に関連した研修を実施した。

講演会は、各園の参観日の中の一つとして位置付けた。そのおかげで、多くの保護者が参加でき、また、父親も一緒に参加できるメリットがあった。『子どもの見方 とらえ方 関わり方』という演題で行い、基本的にプレゼンテーションと配布資料を用いて実施した。内容は、「自分自身の特徴理解」「自己肯定感」「リフレーミング」「実際の相談事例から」「(佐々木正美氏の書籍)『子育てアプリ(主婦の友社)』より、子育てのコツ」「無条件の愛」等から構成した。終盤の内容である「無条件の愛」では、保護者にも発言してもらう機会を設けて、様々な意見を共有できるようにした。加えて、講演会に参加した「教育支援部会」の委員の方々からの発言の機会を設けた。会の最後には、相談できる各関係機関の名前や連絡先を一覧にしたものを配布したり、参加した委員より、一言ずつ自己紹介をしてもらったりするなどの情報発信を行った。

平成30年度は3園、令和元年度は3園、令和2年度は1園(2園中止)、令和3年度は2園で、実施した。



〈資料1 講演会の様子〉

## 4 講演会後のアンケートより

講演会後に、アンケートを実施し、「今日の講演会で印象に残った話や興味があった話がありますか?」「参考になったこと、もっと聞きたかったことなどの感想」「現在お子様のことで気になることがありますか?」「子育てやお子様に関する悩みなどを相談できる人がいらっしゃいますか?」「後日、個別で相談してみたいことがありますか?」などの質問項目に回答していただいた。様々な意見をいただくことができた。その一部を以下に紹介する。

(自由記述より)

- ・子育てについて、視点を変えて考えてみると、ゆったりとした気持ちで子育てができると思いました。
- ・心が軽くなる内容でよかったです！
- ・自己肯定感を高める言葉掛けをたくさんしたいと思いました。
- ・子供との向き合い方の話を聞いて、今日から取り入れたいと思いました。お片付けは毎日怒ってしまうので、一割から任せるといふのをしてみたいと思います。
- ・忙しくてきちんと受け止めなかったり、感情のまま怒ってしまったりしたけど「リフレーミング」は、「あ、そうだな！」と思わされました。
- ・現在、子供のことで悩んでいることがあり、どこに相談したらいいのかと探し回っていました。(中略) 今日聞けてよかったです。
- ・子の成長、自分自身の育児に悩みがあったので、ためになりました。子供が泣かない日はないんじゃないかというほどよく泣きます。泣いている理由が分からないこともあり、「親が困る」と思っていました。先生の話聞き、リフレーミングの考え方をとることで、子供に対しての見方が変わるような気がしました。

上記のように、子育てについて『悩み』を抱えていたり、相談する『場所』について悩んでいたりする保護者も少なからず存在した。また、「後日、個別で相談してみたいことがありますか？」の質問に対して、「はい」と回答し、名前を記入される保護者もあり、その際には、関係機関の紹介が行われ、相談支援業務を実施した。

### Ⅲ 成果と今後の課題

#### 1 保護者とのつながり

本実践では、子供の行動の見方や、子育てに対して具体的な方法などを、講演会を通して発信することができた。また、「相談したい」と思っている保護者を関係機関とつなぐ役割を担うこともできた。加えて、地域コーディネーターの相談業務を行う中で、講演会のことを保護者が覚えてくださっていることがあり、相談業務がよりスムーズに行えることがあった。講演会を通して、保護者に対し、地域コーディネーターや相談業務のことについて周知し、理解を得たことで、相談しやすい雰囲気づくりができたと感じている。

#### 2 幼稚園・保育園、関係機関とのつながり

幼稚園や保育園からの「要請訪問」の依頼は、年々、増加する傾向があり、早期からの支援を考える環境が整いつつある。また、ことばの教室幼児部担当者と同伴して「要請訪問」に伺うなど、関係機関と連携を密にして支援を行うことができたケースもあった。本実践のような取組も重要であるが、関係者が参集する機会を活用するなど、ふだんからのコミュニケーションを大切し、今後も支援体制をより充実させていきたい。

### 3 最後に

本実践で、「子育て講演会」の取組も活用しながら、早期からの支援体制の構築に向けて各関係機関と連携することができ、「横のつながり」を充実させることができた。これらの取組から始まった具体的な支援が、切れ目なく継続していくためにも、小学校から中学校、中学校から高等学校などと、「縦のつながり」においても、切れ目ない支援を行っていくことを、より一層充実させていきたい。

#### 〈指導・助言〉

##### ① 本実践のすばらしさ

- ・地域コーディネーターが実際に関わった具体的な事例を「子育てに関する講演会」で挙げることで、共感を得たり、相談のメリットを伝えたりすることができている。
- ・園の参観日のメニューの一つとして位置付けたり、保護者に発言してもらおう機会を設けたりするなど、園との連携、設定、構成がすばらしい。

##### ② 保護者が「相談してみたい」「支援を受けたい」と思えるための働き掛け

###### ○ 保護者の現状を褒める

「我が子に関心をもち、園に来ている」「子育てについて悩んでいる＝何とかしたいと思えている」など、保護者自身が、今、できていることを褒める。

###### ○ 先に答えを言わない

「ゴソゴソするんです」「言葉が出ないんです」……保護者に子供の現状を聞き、支援者が「あ、あの子に似ている」「こうすればこうなるのに」と思っても、先例や「支援者が勝手に予想した未来の理想像」を語るべきではない。保護者が支援者に求めるのは、正解ではなく気持ちを理解してもらうことである。

###### ○ すぐに実践できることを提案し、次の約束をする

質問しながら、すでに実践していて継続できそうなこと、少し頑張ればできそうなことを一つだけ提案し、相談窓口の電話番号を渡したり、相談日を決めたりする。

##### ③ 関係機関との連携～早期発見、早期からの支援を行うために～

- ・可能な限り、園やことばの教室幼児部などに足を運び、子供たちや関係者と日常的なコミュニケーションを図り、総合的に理解を深める。(特性だけに目を向けない)
- ・それぞれの機関の担当者が、保護者の「自責の念、原因探し、先行きに対する不安、疎外感等」の感情に寄り添いつつも、機関ごとに子供の成長段階による役割の違いを整理し、横のつながり、縦のつながりを強固にするための情報共有を行う。